

真理子先生の

# 女性のさかた

## 妊娠を望まれている方へ②

お子さんが授からない場合、いつごろ専門医に相談すべきでしょうか？

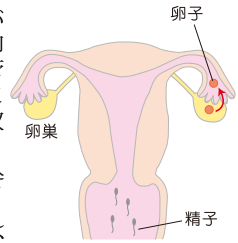
### 専門医への相談時期

一般的には2年ぐらい様子を見てからと言われますが、お2人が不安なら時間を置く必要はななく、早めの検査で思いがけない原因が見つかることもあります。

卵巣から排出された卵

## 伊藤 真理子

● (いとう・まりこ) 1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に眞理子レディースクリニックを開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。



子が卵管に取り込まれ、子宮に入ってきた精子と出会うことが受精。受精した受精卵が子宮内膜に着床することで妊娠に至り、神秘的な生命のはじまりとなります。

望んでいるのになかなか授からないというご夫婦には、このメカニズムのどこかに差し障りがあるのでしょうか。

### 原因は女性のみに非ず

もちろん現代の医学では原因が分からず、治療

しても願いが届かないこともあります。とかく女性に原因があるとされる風潮には違和感を覚えます。卵子と精子の出会いが妊娠のはじまりであり、その意味では男性側にも精子検査は受けていただきたいものです。

### 男性も積極的に検査を

男性の検査は御自身で採ってもらった精子の量、濃度、運動率や奇形などを専門医が顕微鏡で調べるだけで事足りま

す。そこで異常が見つければ静脈瘤がないかどうかなどを磁気共鳴画像装置(MRI)を使って調べたり、ホルモン検査で

調べたりすることで原因が明らかになる場合もあります。

治療が必要な場合はお薬を飲んだりしていただきます。

### 敷居を取り払って

男性にとって精子検査がかなり敷居の高いものであることはお察しします。ですが女性の検査はさらに複雑で、中には体に負担のかかるものもあるのです。

どうか男性は勇気を出して検査を受けて欲しいものです。「夫が検査を受けてくれなくて」と涙を流される奥様も多いのですよ。